



# 令和6年度第3回 名張市地域活力創生会議資料

## 「なばり新時代戦略 (デジタル田園都市構想総合戦略版)」 (案)

令和6年10月7日(月)

# 総合計画と総合戦略の関係

基本構想・基本計画・地域別計画で構成され将来どのようなまちにしていくなかの道しるべとなるまちづくりの基本となる計画です。

基本理念

「語れるまち なばり」

デジタル技術の活用によって、名張市の個性を生かしながら産業の活性化や名張の魅力向上、人口減少対策の取組を加速化・深化する計画です。

総合計画  
なばり新時代戦略

相互連携



デジタル田園都市  
総合戦略版

重点プロジェクトと基本施策



## 語れるまちなばり

ひととひとのつながりが名張市の財産です。まちに愛着を持った人がつながり、コミュニケーションが活発に行われ、まちの将来に主体的に関わるひと（協力者）を増やしていくことが重要です。

市内外の協力者を増やしながらか、まちの魅力をみんなで発信し、魅力ある場をたくさん作る。

身近な人、周りの人、名張を知らない人たちに名張を語りたくなる。そういったひとをたくさん増やしていく。そうすることで、名張「らしさ」をかたちづくることができます。みなさんとにぎわいあふれる「語れるまちなばり」を目指します。



## はじめに

本市は関西圏のベッドタウンとして急激に発展してきましたが、2000年（平成12年）の83,291人をピークに人口は徐々に減少しています。

2001（平成13）年から2004（平成16）年にかけては、出生数と死亡者数の差による自然増減は「自然増」であるものの、転入者と転出者の差による社会増減が「社会減」に転じ、社会減が自然増を上回ったため人口が減少となりました。

その後、2005（平成17）年からは、400人規模の「社会減」となり、さらには、自然増減も「自然減」に転じ、自然増減、社会増減共に減少しています。

その後2018年までは社会減が自然減を上回っていましたが、2019年に自然減が社会減を上回り始めました。

次に「しごと」の面では、ベッドタウンとして発展していた時期は関西圏へ勤務していた方々も多くいましたが、現在は伊賀地域や近隣の市町村へ勤務される方が増えています。

しかしながら生活のまちとして発展してきたことから、多くの市民が市外で働いている状況です。

本市の発展、機能維持のためにはできるだけ人口減少を緩やかにしていくことが急務となっています。

また、人口減少を見据えた持続できるまちづくりを行うことも合わせて行っていく必要があります。

## 名張市の位置・面積



市役所の位置	所在地	名張市鴻之台1番町1番地
	北緯	34度37分27秒
	東経	136度06分40秒
広ぼう (m)	東西	10,550
	南北	13,100
面積 (km <sup>2</sup> )		129.77
海拔 (m)		225.93

名張市統計資料より

### (1) 地目別民有地面積

各年1月1日 (単位千㎡)

西暦 (和暦)	総数	田	畑	宅地	池沼	山林	原野	雑種地
1981年 (昭和56年)	68,155	15,047	5,355	8,037	479	36,509	1,091	1,633
1990年 (平成2年)	67,246	13,780	5,133	10,467	472	34,544	1,082	1,768
2000年 (平成12年)	71,869	12,579	4,549	12,561	1,104	36,574	1,062	3,440
2010年 (平成22年)	72,493	12,466	4,654	13,236	1,081	36,627	1,064	3,365
2021年 (令和3年)	72,454	11,935	4,410	13,598	1,945	35,831	1,039	3,696
2022年 (令和4年)	72,452	11,915	4,379	13,669	1,945	35,833	1,033	3,678
2023年 (令和5年)	72,468	11,857	4,381	13,743	1,945	35,841	1,034	3,667

名張市統計資料より

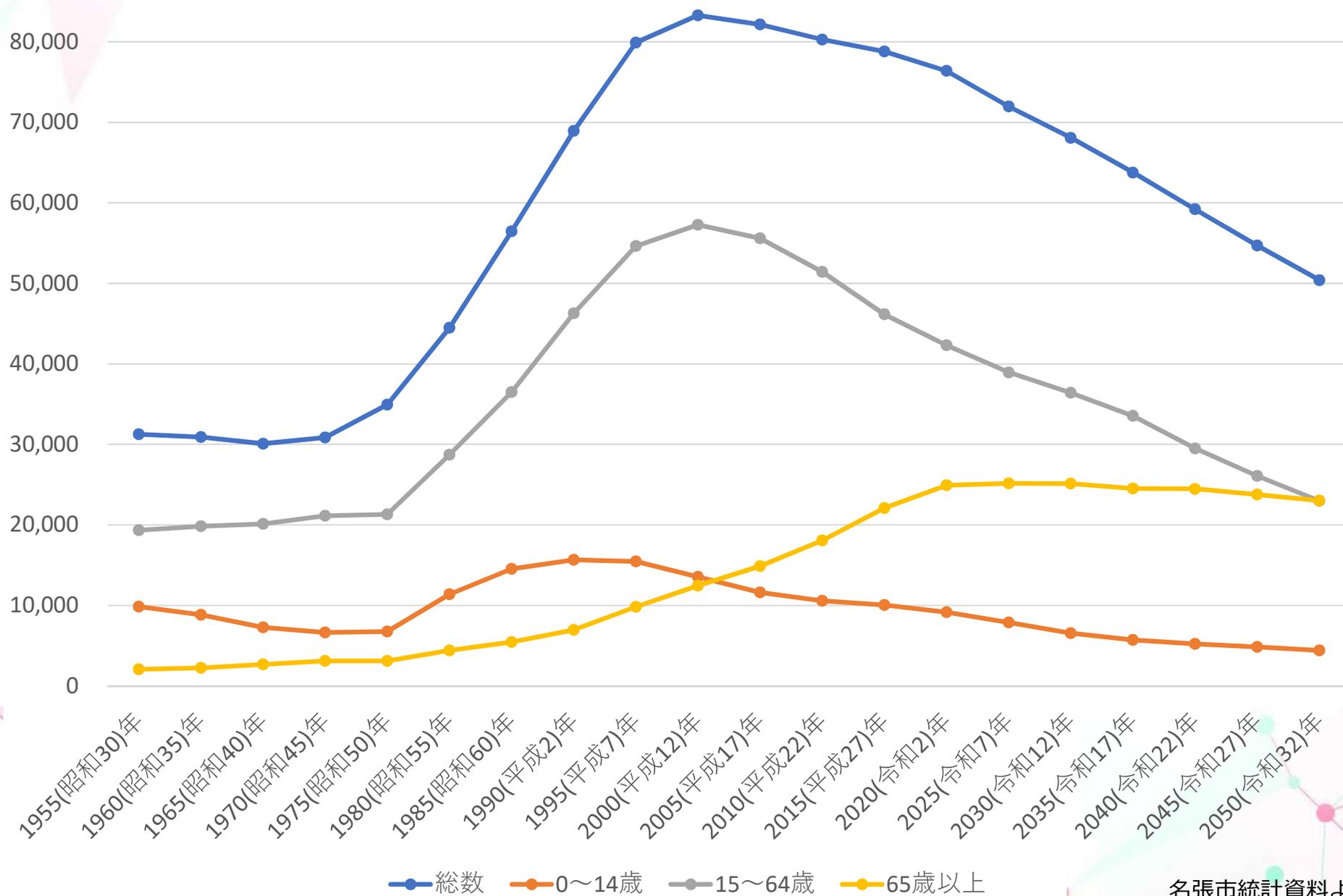
# 名張市の近年の人口等の動き

各年10月1日

西暦（和暦）	人口総数 （人）	うち外国人 （人）	年齢階層別 ※（）内は構成比			世帯数 （世帯）
			0～14歳（人）	15～64歳（人）	65歳～（人）	
1980年（昭和55年）	44,488	71	11,374(25.6%)	28,720(64.6%)	4,394(9.9%)	11,803
1990年（平成2年）	68,933	236	15,667(22.7%)	46,273(67.2%)	6,959(10.1%)	19,490
2000年（平成12年）	83,291	489	13,552(16.3%)	57,269(68.8%)	12,440(14.9%)	26,716
2010年（平成22年）	80,284	629	10,560(13.2%)	51,424(64.1%)	18,066(22.5%)	29,481
2021年（令和3年）	75,669	1,077	8,902(11.8%)	41,031(54.2%)	25,150(33.2%)	31,582
2022年（令和4年）	75,031	1,038	8,701(11.6%)	40,369(53.8%)	25,375(33.8%)	31,793
2023年（令和5年）	74,087		8,400(11.3%)	39,618(53.5%)	25,483(34.4%)	31,844

名張市統計書より

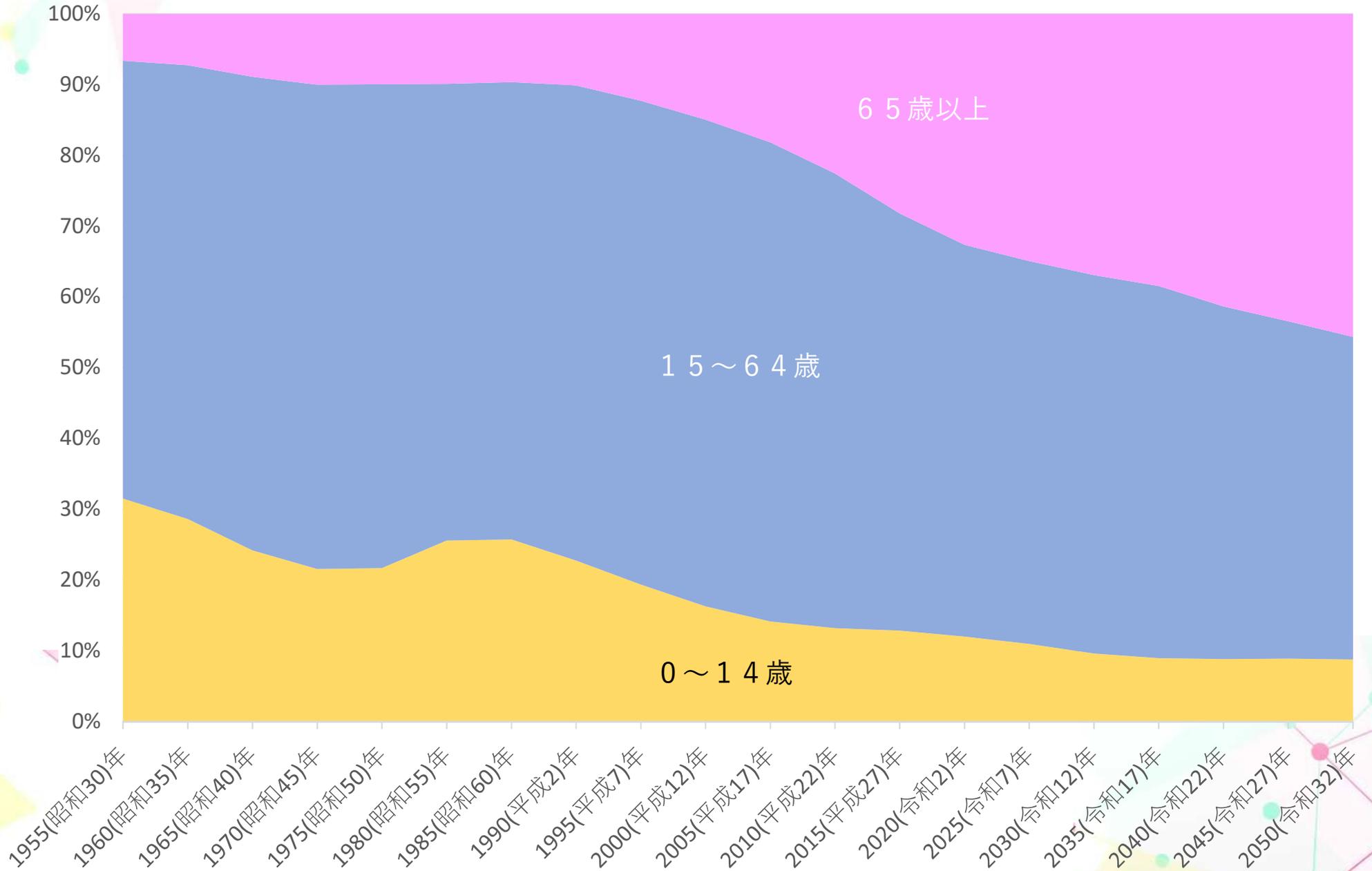
# 名張市の近年の人口等の動き（グラフ）



名張市統計資料より

# 名張市の年代別人口割合の推移

名張市統計資料より



## 名張市の将来人口推計について

○国より提供された「人口動向分析・将来人口推計のための基礎データ及びワークシート（令和6年6月版）」を活用

○パターン1（社人研推計準拠）

国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」の結果と整合的な、将来の生残率、純移動率、子ども女性比及び0～4歳性比の各指標を利用した推計（コーホート要因法による将来人口推計）

○パターン2（独自推計）

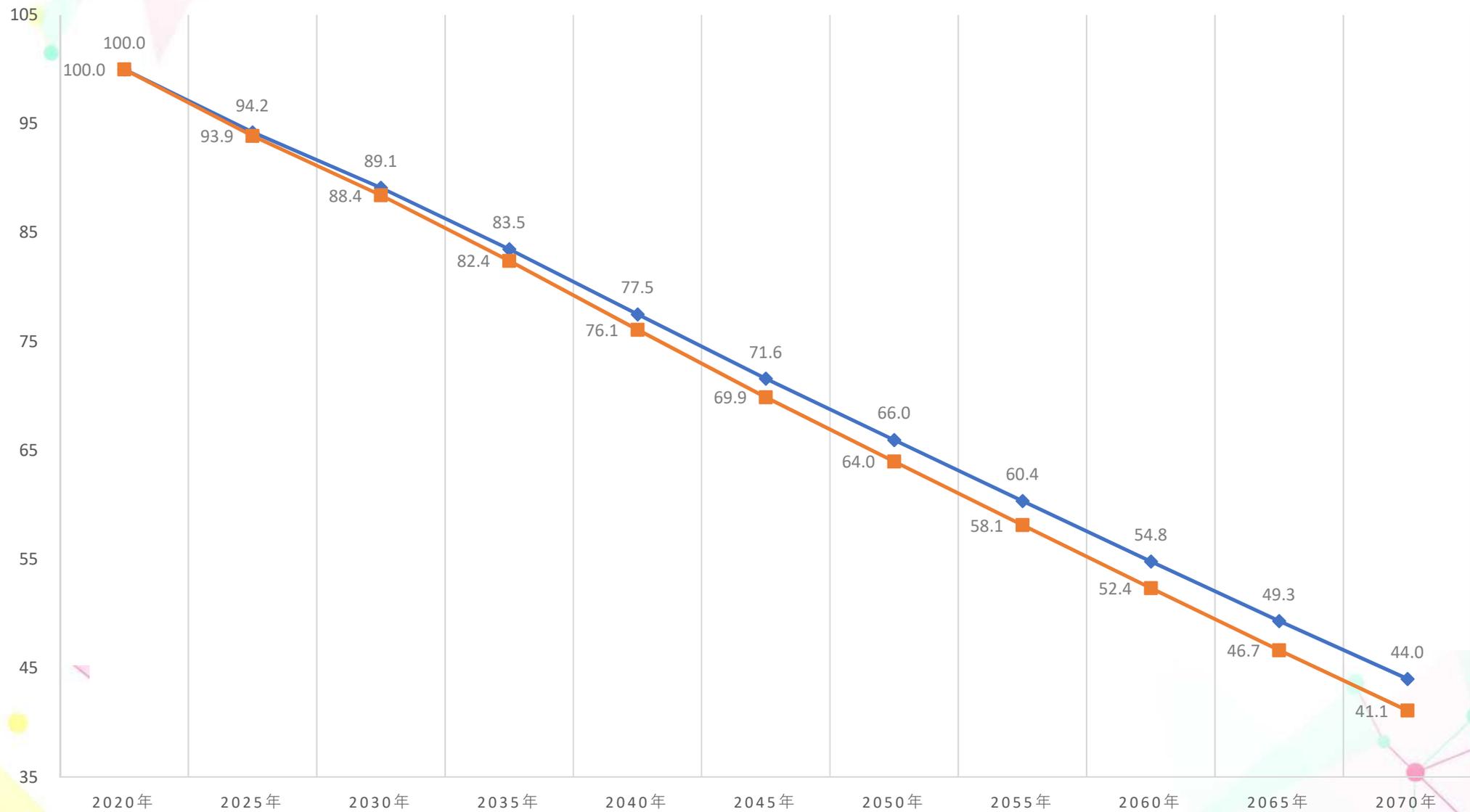
出生に関する仮定値である将来の合計特殊出生率等（※1）と、移動に関する仮定値である将来の純移動率等（※2）とを独自に設定した推計（コーホート要因法による将来人口推計）

※1：仮定値…名張市の直近の合計特殊出生率（1.20）

※2：仮定値…国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（令和5年推計）」の純移動率（2050年以降は、「2045→2050年の純移動率」を適用）

# 名張市の将来人口推計について（2020年人口を100としたときの将来人口推計）

◆ パターン1（社人研推計準拠）      ■ パターン2（独自推計）



## 国の将来推計人口（令和5年推計の概要）

○将来推計人口は、国勢調査（2020年調査）を出発点とした日本の将来人口を国立社会保障・人口問題研究所が推計したものであり、5年ごとに実施

○今後、我が国の人口は、2020年の1億2,615万人から2070年には8,700万人に減少

○高齢化も進行し、65歳以上人口割合は2020年の28.6%から一貫して上昇し、2070年には38.7%へと増加

○前回推計（平成29年推計）と比べ、将来（2070年）の出生率は1.44から1.36に低下。一方で、平均寿命は延伸し、外国人の入国超過数は増加の見通し

○日本の総人口

1億2,615万人（2020年実績）→8,700万人（2070年推計）

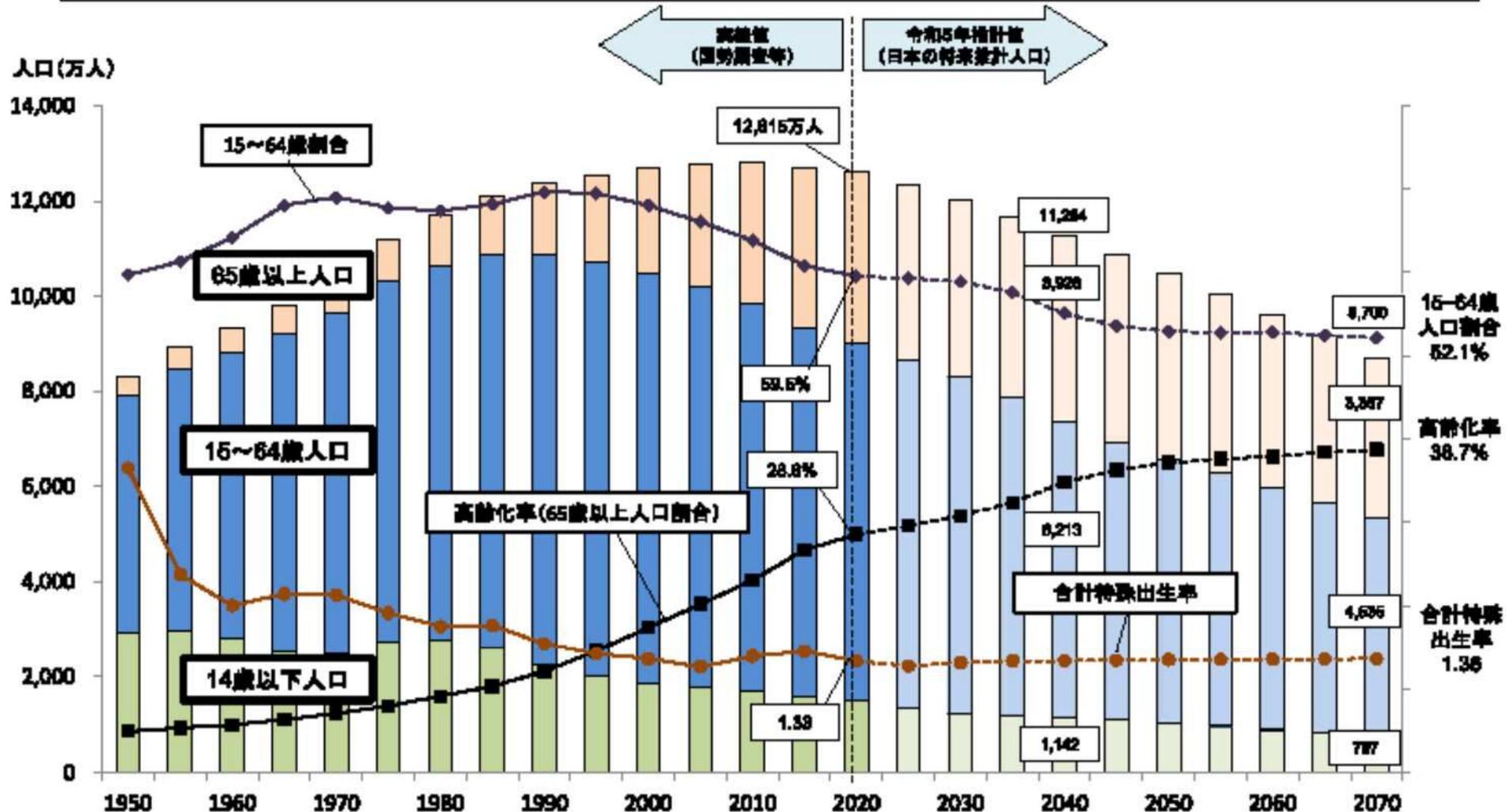
・0～14歳：1,503万人（11.9%）→797万人（9.2%）

・15～64歳：7,509万人（59.5%）→4,535万人（52.1%）

・65歳以上：3,603万人（28.6%）→3,367万人（38.7%）

# 日本の人口の推移

○ 日本の人口は近年減少局面を迎えている。2070年には総人口が9,000万人を割り込み、高齢化率は39%の水準になると推計されている。



(出所) 2020年までの人口は総務省「国勢調査」、合計特殊出生率は厚生労働省「人口動態統計」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和8年推計)」(出生中位(死亡中位)推計)

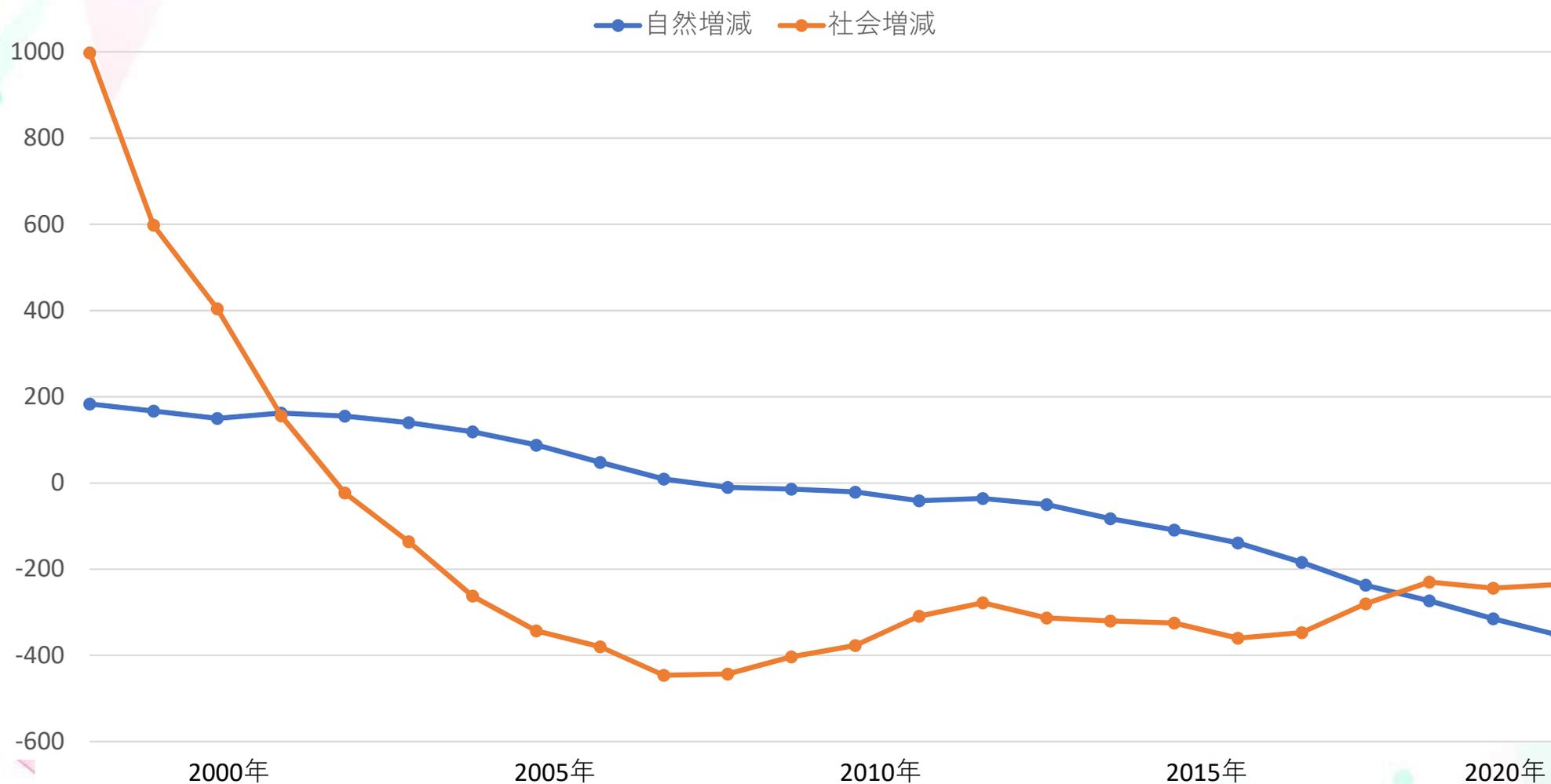
## 名張市の自然・社会増減と合計特殊出生率

各年1月1日～12月31日 (単位：人)

西暦 (和暦)	自然増減			社会増減			合計特殊出生率		
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	全国	三重県	名張市
1980年 (昭和55年)	555	291	264	4,774	1,668	3,106	1.75	1.82	—
1990年 (平成2年)	680	376	304	6,323	2,732	3,591	1.54	1.61	—
2000年 (平成12年)	655	552	103	3,362	3,193	169	1.36	1.48	1.25
2010年 (平成22年)	651	683	△32	2,375	2,765	△390	1.39	1.51	1.40
2021年 (令和3年)	446	882	△436	1,967	2,224	△257	1.30	1.43	1.38
2022年 (令和4年)	373	919	△546	2,160	2,360	△200	1.26	1.40	1.20
2023年 (令和5年)	367	973	△606	2,053	2,434	△381	1.29	1.26	

名張市統計資料より

## 名張市の自然増減と社会増減の推移（グラフ）



名張市統計資料より

【出典】 都道府県：厚生労働省「人口動態調査」、総務省「住民基本台人口移動報告年報」  
市区町村：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工

【注記】 都道府県：2013年までは日本人のみ、2014年以降は外国人を含む数字。  
市区町村：2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

## 年齢階層別年間転入者数・転出者数の推移

(各年1月1日～12月31日)

西暦 (和暦)	転入 出別	計 (人)	年齢階層 (人)					
			0～14歳	15～29歳	30～39歳	40～49歳	50～64歳	65歳～
1990年 (平成2年)	転入	6,341	1,660	1,508	1,331	710	743	389
	転出	2,732	438	1,194	405	286	263	146
	差引	3,609	1,222	314	926	424	480	243
2000年 (平成12年)	転入	3,363	514	1,231	651	263	394	310
	転出	3,193	400	1,495	520	285	294	199
	差引	170	114	△264	131	△22	100	111
2010年 (平成22年)	転入	2,375	298	810	596	224	250	197
	転出	2,765	286	1,156	625	253	234	211
	差引	△390	12	△346	△29	△29	16	△14
2020年 (令和2年)	転入	2,067	241	728	441	258	226	173
	転出	2,528	243	1,097	520	280	206	182
	差引	△461	△2	△369	△79	△22	20	△9
2021年 (令和3年)	転入	1,967	201	719	424	231	201	191
	転出	2,224	164	1,015	450	246	189	160
	差引	△257	37	△296	△26	△15	12	31
2022年 (令和4年)	転入	2,160	233	843	450	229	225	180
	転出	2,360	217	1,048	471	266	193	165
	差引	△200	16	△205	△21	△37	32	15
2023年 (令和5年)	転入	2,053	212	761	440	253	206	181
	転出	2,434	184	1,059	517	300	209	165
	差引	△381	28	△298	△77	△47	△3	16

住民基本台帳より

# 名張市の事業所数・従業者数・昼夜間人口

## (1) 常住地による就業者数

西暦（和暦）	事業所数	従業者数（人）
1981年（昭和56年）	2,322	14,850
1991年（平成3年）	2,806	23,325
2001年（平成13年）	3,261	29,228
2012年（平成24年）	2,818	26,324
2021年（令和3年）	2,712	25,981

経済センサス－基礎調査、活動調査より

## (2) 昼夜間人口等

各年10月1日現在

西暦（和暦）	昼夜間人口比率	夜間人口	昼間人口	昼間流入人口（人）			昼間流出人口（人）		
				就業者	通勤者	合計	就業者	通勤者	合計
1980年（昭和55年）	89.6%	44,488	39,841	3,015	617	3,632	7,051	1,228	8,279
1990年（平成2年）	85.5%	68,899	58,931	5,198	1,050	6,248	13,279	2,940	16,216
2000年（平成12年）	84.5%	83,261	70,359	6,179	1,389	7,568	17,034	3,436	20,470
2010年（平成22年）	84.9%	80,050	67,993	5,367	1,040	6,407	15,878	2,586	18,464
2020年（令和2年）	87.9%	75,801	66,635	4,955	854	5,809	13,151	1,824	14,975

就業地・通学地に不詳を含む 国勢調査より

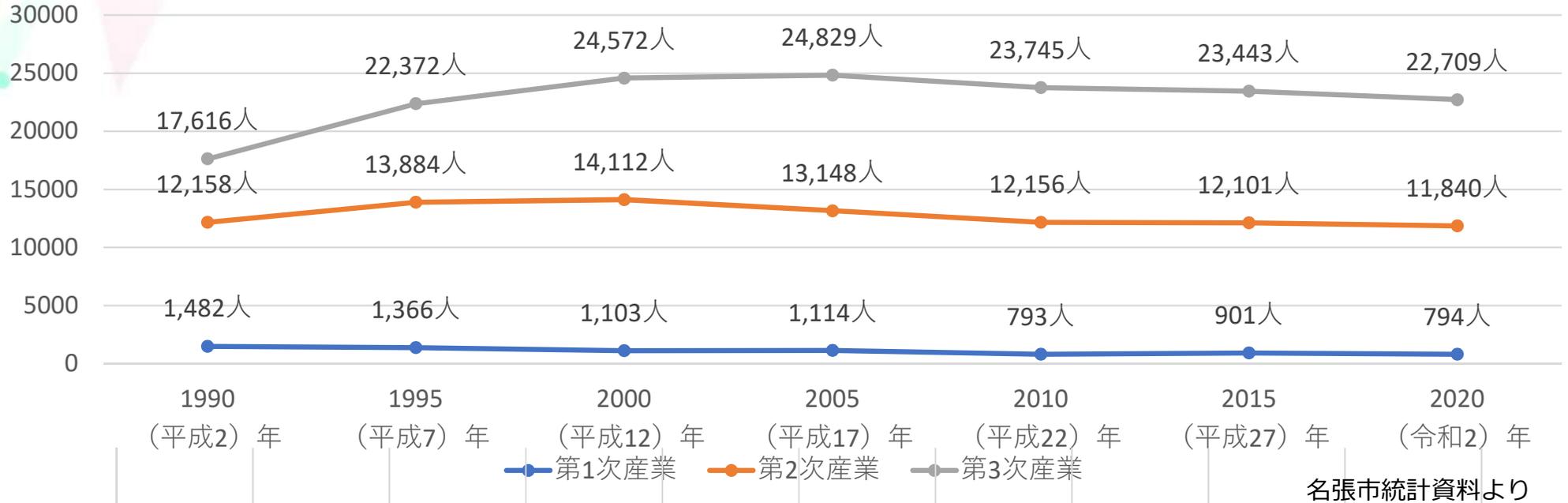
# 名張市の通勤による流入出入口

(単位：人)

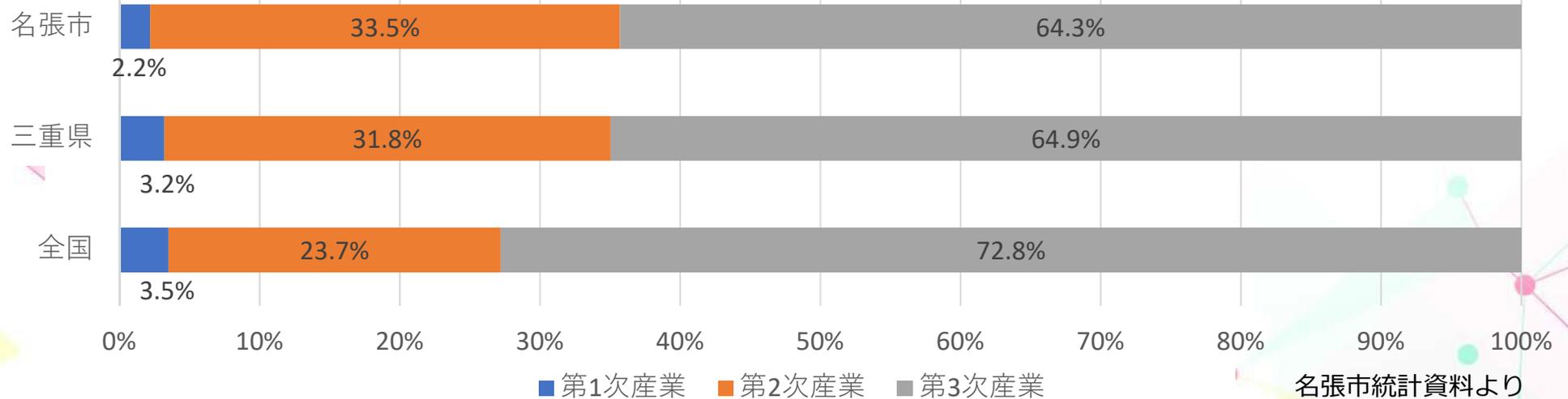
都道府県	区分	1990 (平成2)年	1995 (平成7)年	2000 (平成12)年	2005 (平成17)年	2010 (平成22)年	2015 (平成27)年	2020 (令和2)年
伊賀市	流入	2,299	2,680	2,879	2,989	2,647	2,717	2,444
	流出	2,297	4,104	5,392	6,799	7,250	7,413	7,560
	差引	2	△1,424	△2,513	△3,810	△4,603	△4,696	△5,116
津市	流入	581	602	728	600	526	470	452
	流出	275	366	459	540	571	578	563
	差引	306	236	269	60	△45	△108	△111
県内他市町	流入	485	536	435	367	362	315	291
	流出	226	300	294	438	484	415	575
	差引	259	236	141	△71	△122	△100	△284
大阪府	流入	409	473	404	309	246	255	198
	流出	7,983	8,898	7,597	5,776	4,298	3,290	2,368
	差引	△7,574	△8,425	△7,193	△5,467	△4,052	△3,035	△2,170
奈良県	流入	1,346	1,497	1,554	1,542	1,437	1,487	1,399
	流出	2,018	2,745	2,639	2,370	2,043	1,852	1,610
	差引	△672	△1,248	△1,085	△828	△606	△365	△211
京都府	流入	35	44	56	59	47	62	51
	流出	108	159	162	181	130	126	118
	差引	△73	△115	△106	△122	△83	△64	△67
その他の県	流入	43	114	123	102	102	144	120
	流出	369	416	491	452	390	470	357
	差引	△326	△302	△368	△350	△288	△326	△237
計	流入	5,198	5,946	6,179	5,968	5,367	5,450	4,955
	流出	13,276	16,988	17,034	16,556	15,166	14,144	13,151
	差引	△8,078	△11,042	△10,855	△10,588	△9,799	△8,694	△8,196

# 産業別就業者の推移等

## (2) 産業別人口の推移



## (2) 産業別人口割合の推移

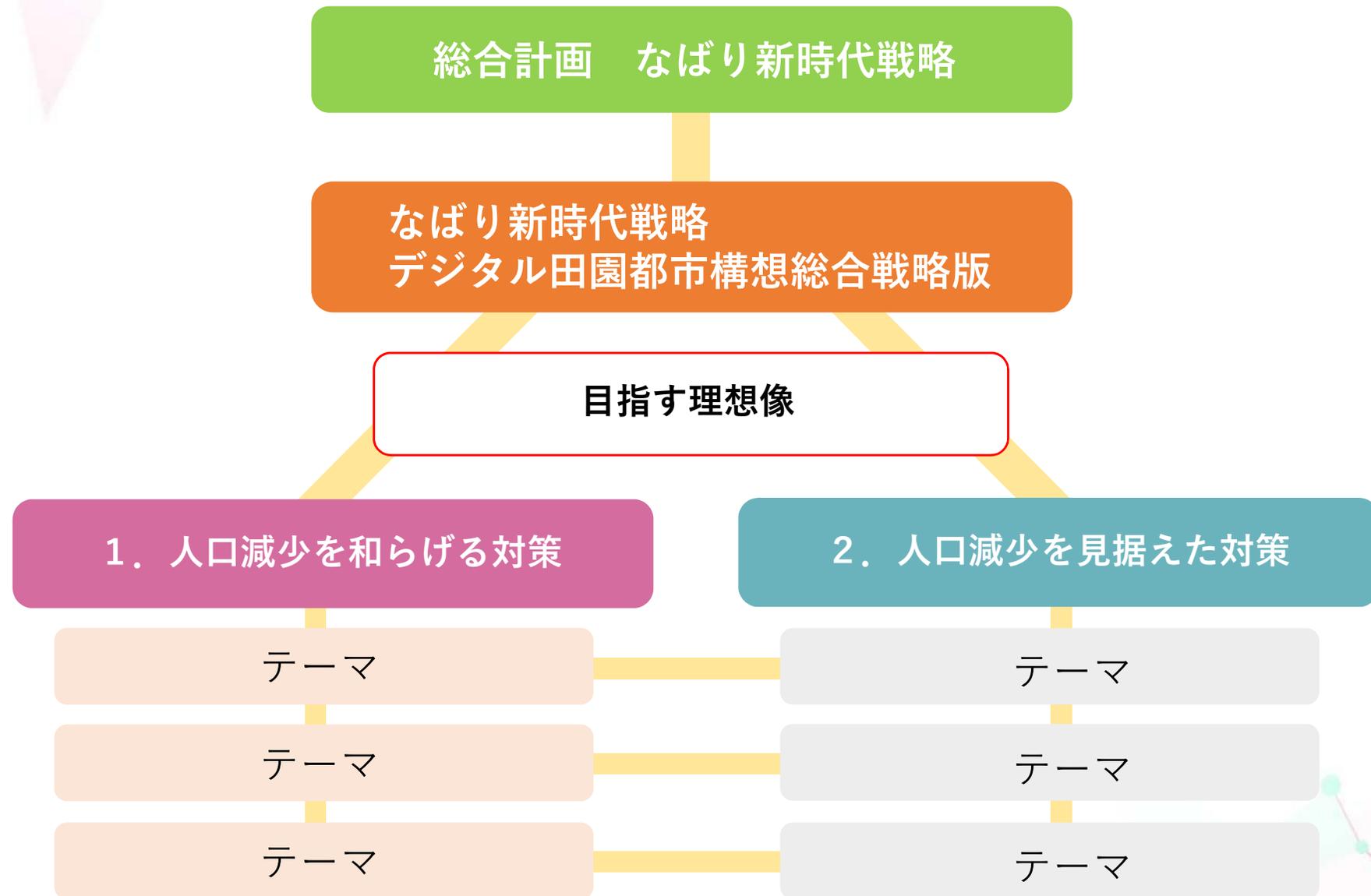


## 産業分類別就業者数と年代別割合

産業分類	就業者数（人）			年代別割合					
	男	女	総数	15～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
A_農業，林業	502	289	791	4.3%	6.7%	9.9%	10.2%	29.2%	39.7%
01_うち農業	488	287	775	-	-	-	-	-	-
B_漁業	2	1	3	-	-	-	-	-	-
C_鉱業，採石業，砂利採取業	4	-	4	-	-	-	-	-	-
D_建設業	1,432	309	1,741	8.6%	13.8%	26.3%	19.8%	21.9%	9.6%
E_製造業	7,024	3,071	10,095	13.6%	22.6%	27.8%	20.4%	11.6%	4.1%
F_電気・ガス・熱供給・水道業	164	39	203	6.4%	11.3%	35.5%	26.6%	19.2%	1.0%
G_情報通信業	294	141	435	17.0%	18.9%	22.1%	23.4%	15.9%	2.8%
H_運輸業，郵便業	1,347	232	1,579	6.4%	14.7%	24.2%	28.7%	20.9%	5.1%
I_卸売業，小売業	2,159	2,866	5,025	12.9%	15.1%	22.4%	20.0%	21.2%	8.3%
J_金融業，保険業	176	332	508	13.4%	18.5%	19.9%	26.4%	17.9%	3.9%
K_不動産業，物品賃貸業	214	180	394	4.8%	13.2%	17.8%	17.3%	26.6%	20.3%
L_学術研究，専門・技術サービス業	471	213	684	7.6%	12.3%	18.4%	18.6%	27.0%	16.1%
M_宿泊業，飲食サービス業	539	1,124	1,663	22.2%	13.6%	19.5%	15.9%	17.3%	11.5%
N_生活関連サービス業，娯楽業	642	1,038	1,680	12.6%	15.5%	19.4%	16.3%	22.9%	13.3%
O_教育，学習支援業	697	1,033	1,730	14.0%	16.5%	21.2%	24.3%	19.6%	4.3%
P_医療，福祉	1,203	3,984	5,187	11.5%	18.5%	23.3%	19.9%	19.5%	7.3%
Q_複合サービス事業	192	137	329	10.0%	17.6%	28.9%	24.6%	17.9%	0.9%
R_サービス業（他に分類されないもの）	1,374	798	2,172	6.8%	12.2%	19.2%	18.7%	26.4%	16.7%
S_公務（他に分類されるものを除く）	766	354	1,120	11.9%	17.1%	27.2%	25.6%	16.1%	2.1%

令和2年国勢調査より

# 本市の取組の全体像



## 目指す理想像

### 憧れのひとづくり

ひととひとのつながりが名張市の財産です。まちが元気であるには、市民が元気であることが大切です。輝いている人がたくさんいるまちは活気にあふれ、さらに学生や子どもたちのお手本となります。憧れの人がいることは、将来あの人のようになりたいと思ってもらえることにもつながります。輝いている人との出会いを通して憧れを抱くとともに、地域愛をはぐくみ、活気に満ちたまちになるよう、仕事、プライベート、趣味などで個性を生かして地域で輝くひとづくりに取り組めます。

### チャレンジできる環境づくり

関西圏への通勤者による人口増加で発展してきたベッドタウンから、通勤者が減少する現在、地域内での雇用をつくり、積極的な産業活動が行われるまちづくりを進めています。特に地域資源や既存産業を生かした産業の振興を図ります。これに加え、イベントや行事、スポーツ活動や文化活動などにおいても、さまざまな方が参画でき、「新たなことにチャレンジできる魅力ある環境づくり」を進めることで、まちのにぎわいをつくり、暮らしに活気をもたらします。

### 安心できるまちづくり

人々の価値観や考え方は「十人十色」で、近年は多様性の尊重とともに、ウェルビーイングの向上が謳われています。ウェルビーイングとは「個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念（厚生労働省より引用）」です。つまり仕事・家庭・余暇・生活など人生のすべてにおいて「幸せで満ち足りた状態」をあらわします。ひととひとのつながりを大切にすることで、市民の幸福度が向上するよう、一人ひとりが輝くまちづくりを進めます。

## 各対策の主な施策

### 人口減少を和らげる対策

- ・地域コミュニケーションの活性化
- ・ワークライフバランスの向上
- ・起業・創業支援
- ・U I J ターンの支援  
(都会に出た市民が戻れる環境づくり)
- ・就職のマッチング
- ・ひとにスポットをあてたまちの魅力の発信

### 人口減少を見据えた対策

- ・担い手の確保
- ・DXを活用した働き方や産業振興
- ・施設の活用
- ・イベントでまちを活性化
- ・公民連携

○タイトル

説明・・・・・・・・・・・・・・・・

※各タイトルごとの説明が入ります

**K P I (評価する指数)**

評価する内容	基準値	目標値 (2026年時点)
今後も名張市に住み続けたいと感じている市民の割合	83.8%	85%
▶		

※各タイトルにあった評価項目が入ります (参考に1項目入れていきます)  
この項目は総合計画とリンクします。

## ② 人口減少を見据えた対策

### 各ページのイメージ

#### ○タイトル

説明 . . . . .

#### K P I (評価する指数)

評価する内容	基準値	目標値 (2026年時点)